「都民の会」に参加しませんか

みなさんのお力をぜひかしてください。いっしょに「都立の大学」づくりにとりくみませんか。

① 「都民の会」の賛同人になってください

会の趣意に賛同していただき、都立大学の問題をはじめ、本当の意味での大学づくりの議論にご参加ください。

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

ご住所＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿ 所属＿＿＿＿＿＿＿＿

お電話＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス＿＿＿＿＿＿＿＿

② できる範囲でお力をかしてください

●世話人会への参加●賛同人を募る●小集会や懇談会への参加・お住まいの地域での開催●陳情・請願活動への参加●発送作業やデータ入力など●その他なんでもけっこうです。ぜひご記入ください。

キリトリ線

●呼びかけ人（五十音順）

池上洋通（自治体問題研究所主任研究員）、金子ハルオ（都立大学名誉教授）、清水誠（同）、暉峻淑子（埼玉大学名誉教授）、山口昭男（岩波書店社長）

●目標と課題

①私たちは東京都による強引で一方的な大学改革の進め方に反対し、都立の大学を「都民のための大学」にするための取り組み／議論を進めていきます。

②私たちは当面、都立の新しい大学が以下の点を大学の基本的な姿勢として尊重することを求めます。

「短期大学夜間部・都立大学Ｂ類等などがこれまで積み重ねてきた、社会人・勤労学生・経済的に困難を抱える青年・学生の学ぶ権利を保障する取り組みを継承・発展させること」「都立の大学がこれまで積み重ねてきた学問的な到達を尊重し、多様な学問分野での真理探究の営みを通じて広く都民に貢献すること」「民主的な合意形成を尊重し、学生・院生・教職員等各構成員の要望・声を大学運営にきちんと反映させること、またカリキュラムなど教育課程の編成や大学教育のあり方について学生・院生の意見を尊重すること」「父母・都民（市民）に対して積極的に情報公開を行い、父母・都民から大学に寄せられた声・期待に誠実に耳を傾けること」

●賛同費

(1)個人参加はカンパ（１口千円、学生１口500円何口でも可）

(2)組織参加は入会費（１口１万円何口でも可）

※カンパは活動費用、及び、事務局維持管理費にあてる。

●おもな活動

・呼びかけ人の組織化、及び、陳情・請願など

・「都民の声」を届けるための集会、懇談会　・情報公開請求活動

・その他、大学当事者による諸活動への協力、支援

「都立の大学を考える都民の会」 設立趣意書

2003年8月以降、都立の大学をめぐる動きは大きく変わってきました。東京都の大学管理本部は、これまで都立大学と大学管理本部との間で積み重ねてきた議論や合意を一方的に破棄し、「新しいタイプの大学づくり」を強行に進めようとしています。

私たちは、現在のような「大学改革」の進め方に、都民として強い憤りを感じています。このように強引で非民主的な「改革」の進め方に、私たちは反対します。

もちろん私たちは、都立の大学が、現状のままでよいと考えているわけではありません。改革のプロセスがもっと都民に開かれること、その中で都民の声に大学は誠実に耳を傾けて欲しいという思いを持っています。

しかし現在進められている「改革」は、「都民の声」を口実に進められながら、その実都民の声を全く無視して進められています。都立の大学に対する本当の「都民の声」はどのようなものなのか、そのことを私たちは、様々な立場の都民と共に丁寧に考えていきたいと思います。そのためにも、現在の東京都による一方的な「改革」を押しとどめる必要があります。

私たちは、都立の大学に、将来に対する様々な不安を抱えながらも、学問研究への取り組みを通じて社会に貢献しようとしている教員や院生、あるいは大学での学びを通じて自分自身の生き方を模索しようとしている学生、毎日の事務作業を通じて大学を支えている職員がいることも知っています。彼らはそれぞれの立場から、都立の大学を守るために様々な取り組みをしています。私たちはこのような取り組みを大学の外から応援していくとともに、都民として率直に現在の大学に対する意見・要望を伝え、都立の大学を真に「都民のための大学」とするための取り組みを進めていきたいと考えています。

みんなの思いがいきる
都立の大学づくりを

都立の大学を考える都民の会

e-mail: ganbare_toritudai@yahoo.co.jp
HP: http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/3113/index.html
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学障害児教育講座高橋智研究室気付
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学社会学部荒井容子研究室気付
賛同カンパ振込先：都立の大学を考える都民の会
郵便局口座番号　00190-5-481324

Message 東京都立大学のみなさんから
「わたしたちの未来をうばわないでください」

●学部学生・卒業生

○私達は現在行われている大学改革に対し、非常に不安を感じています。現在履修している科目が「新大学」において単位として認定されるのか。「都立大学」の卒業生としてきちんと卒業できるのか。このままでは私たちは、卒業後の人生について明確な見通しを持つことはできません。非常に不安です。

こうした不安や疑問に対して、学生への説明は極めて不十分です。現在の状況の正確な情報をすべて公開することを私たちは求めます。そしてこれからの大学改革について、私たちなりに考え話し合う場をつくりたいと思います。大学や東京都は、私たち学生の声にきちんと耳を傾け、尊重してください。

○自治会のアンケートでは、回答者の87%が「新大学」計画に反対と答えました。このアンケートでは１、２年生の半分以上、約1200人が回答しており、軽視できる結果とは言えません。都は「学生の声を聞いた」と言いますが、この結果をどう考えるのでしょうか。

○都立大学の廃止と聞き、大変驚いています。親子二代で都立大学に学びました。「都民」ではありませんが、趣旨に賛同します。

●院生

都立大学は学生・院生・教員・職員がいっしょになって、自由な学風をつくり、自由な討議の中で自由な研究が育まれ、学生たちも生き生きと育ってきていたと思います。

そのような都立大のよき伝統をつぶして、教員をはじめ、学生・職員も含めその誠意を上から踏みにじるような方法で、本当によい大学が生み出されるはずはないと思います。

●教員

都知事の「新構想」では、都立４大学の教員を約30%削減することになっています。これまでに行われてきた研究費・図書費の半減という大幅な予算削減にさらに追い打ちをかけるものです。 とりわけ、都立大人文学部（文学系各学科、教育学科など）では、各学科の学生定員が少ないことを理由に、138人の教員を64人とするとされています。人文学部が大学全体の教養教育に大きな責任を負っている現状を全く無視しており、「教養教育を重視する」とした「新構想」とも矛盾するものです。

私たち大学側も、これまでに検討してきた大学改革計画を提示しいます。大学の意見を聴かないで、どうしていい大学ができるのでしょうか。

●都民

○青年時代には、さまざまなことを見聞、体験し、多様なものの見方を身につけることが大切です。文学・歴史・教育など人文系の学問は、「明日のパン」をすぐに創り出すことはできないけれど、人生を広げる豊かな「未来の糧」であるはずです。

また、真の「国際化」のためには日本に対する理解を深めることが不可欠です。人文学部を廃止し、日本語や日本文学・歴史研究すら消滅させるのは、日本人としての意識を大切にする都知事の考えとも矛盾します。目先の機能や実用性の重視だけでは豊かな未来を展望できません。

○研究や教育を通じて、都民、社会にどう貢献するのか。都立大関係者も公費での大学運営を自覚し、「私たちの都立大改革」を都民と一緒に練り上げる必要があるのでは？

○これは「大学改革」という名の下に、都の行政の失敗のツケを学生、教職員に押しつけ、教育の機会、芽を摘んでしまう大改悪案に他なりません。都の失政のツケを教育という次世代の人材を育成する崇高な場に回してくるとは、とても信じられません。東京都は他に襟を正してやらなければならないことがあるはずです。非常な怒りを感じています。

キリトリ線

あなたからのメッセージをお寄せ下さい

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

男・女　（　　）歳代

※「都民の会」の資料などへのこのメッセージの掲載は
可　・　不可　（いずれかにマルを）

Message 東京都立大学のみなさんから

「わたしたちの未来をうばわないでください」

●学部学生・卒業生

○私達は現在行われている大学改革に対し、非常に不安を感じています。現在履修している科目が「新大学」において単位として認定されるのか。「都立大学」の卒業生としてきちんと卒業できるのか。このままでは私たちは、卒業後の人生について明確な見通しを持つことはできません。非常に不安です。

こうした不安や疑問に対して、学生への説明は極めて不十分です。現在の状況の正確な情報をすべて公開することを私たちは求めます。そしてこれからの大学改革について、私たちなりに考え話し合う場をつくりたいと思います。大学や東京都は、私たち学生の声にきちんと耳を傾け、尊重してください。

○自治会のアンケートでは、回答者の87%が「新大学」計画に反対と答えました。このアンケートでは１、２年生の半分以上、約1200人が回答しており、軽視できる結果とは言えません。都は「学生の声を聞いた」と言いますが、この結果をどう考えるのでしょうか。

○都立大学の廃止と聞き、大変驚いています。親子二代で都立大学に学びました。「都民」ではありませんが、趣旨に賛同します。

●院生

都立大学は学生・院生・教員・職員がいっしょになって、自由な学風をつくり、自由な討議の中で自由な研究が育まれ、学生たちも生き生きと育ってきていたと思います。

そのような都立大のよき伝統をつぶして、教員をはじめ、学生・職員も含めその誠意を上から踏みにじるような方法で、本当によい大学が生み出されるはずはないと思います。

●教員

都知事の「新構想」では、都立４大学の教員を約30%削減することになっています。これまでに行われてきた研究費・図書費の半減という大幅な予算削減にさらに追い打ちをかけるものです。 とりわけ、都立大人文学部（文学系各学科、教育学科など）では、各学科の学生定員が少ないことを理由に、138人の教員を64人とするとされています。人文学部が大学全体の教養教育に大きな責任を負っている現状を全く無視しており、「教養教育を重視する」とした「新構想」とも矛盾するものです。

私たち大学側も、これまでに検討してきた大学改革計画を提示しします。大学の意見を聴かないで、どうしていい大学ができるのでしょうか。

●都民

○青年時代には、さまざまなことを見聞、体験し、多様なものの見方を身につけることが大切です。文学・歴史・教育など人文系の学問は、「明日のパン」をすぐに創り出すことはできないけれど、人生を広げる豊かな「未来の糧」であるはずです。

また、真の「国際化」のためには日本に対する理解を深めることが不可欠です。人文学部を廃止し、日本語や日本文学・歴史研究すら消滅させるのは、日本人としての意識を大切にする都知事の考えとも矛盾します。目先の機能や実用性の重視だけでは豊かな未来を展望できません。

○研究や教育を通じて、都民、社会にどう貢献するのか。都立大関係者も公費での大学運営を自覚し、「私たちの都立大改革」を都民と一緒に練り上げる必要があるのでは？

○これは「大学改革」という名の下に、都の行政の失敗のツケを学生、教職員に押しつけ、教育の機会、芽を摘んでしまう大改悪案に他なりません。都の失政のツケを教育という次世代の人材を育成する崇高な場に回してくるとは、とても信じられません。東京都は他に襟を正してやらなければならないことがあるはずです。非常な怒りを感じています。

あなたからのメッセージをお寄せ下さい

キリトリ線

男・女　（　　）歳代

※「都民の会」の資料などへのこのメッセージの掲載は
可　・　不可　（いずれかにマルを）

「都民の会」に参加しませんか

みなさんのお力をぜひかしてください。いっしょに「都立の大学」づくりにとりくみませんか。

① 「都民の会」の賛同人になってください

会の趣意に賛同していただき、都立大学の問題をはじめ、本当の意味での大学づくりの議論にご参加ください。

お名前

ご住所

所属

お電話

メールアドレス

② できる範囲でお力をかしてください

●世話人会への参加●賛同人を募る●小集会や懇談会への参加・お住まいの地域での開催●陳情・請願活動への参加●発送作業やデータ入力など●その他なんでもけっこうです。ぜひご記入ください。

キリトリ線

●呼びかけ人（五十音順）
池上洋通（自治体問題研究所主任研究員）、金子ハルオ（都立大学名誉教授）、清水誠（同）、暉峻淑子（埼玉大学名誉教授）、山口昭男（岩波書店社長）

●目標と課題
①私たちは東京都による強引で一方的な大学改革の進め方に反対し、都立の大学を「都民のための大学」にするための取り組み／議論を進めていきます。
②私たちは当面、都立の新しい大学が以下の点を大学の基本的な姿勢として尊重することを求めます。
「短期大学夜間部・都立大学Ｂ類等などがこれまで積み重ねてきた、社会人・勤労学生・経済的に困難を抱える青年・学生の学ぶ権利を保障する取り組みを継承・発展させること」「都立の大学がこれまで積み重ねてきた学問的な到達を尊重し、多様な学問分野での真理探究の営みを通じて広く都民に貢献すること」「民主的な合意形成を尊重し、学生・院生・教職員等各構成員の要望・声を大学運営にきちんと反映させること、またカリキュラムなど教育課程の編成や大学教育のあり方について学生・院生の意見を尊重すること」「父母・都民（市民）に対して積極的に情報公開を行い、父母・都民から大学に寄せられた声・期待に誠実に耳を傾けること」

●賛同費
(1)個人参加はカンパ（１口千円、学生１口500円何口でも可）
(2)組織参加は入会費（１口１万円何口でも可）
※カンパは活動費用、及び、事務局維持管理費にあてる。

●おもな活動
・呼びかけ人の組織化、及び、陳情・請願など
・「都民の声」を届けるための集会、懇談会　・情報公開請求活動
・その他、大学当事者による諸活動への協力、支援

「都立の大学を考える都民の会」 設立趣意書

2003年8月以降、都立の大学をめぐる動きは大きく変わってきました。東京都の大学管理本部は、これまで都立大学と大学管理本部との間で積み重ねてきた議論や合意を一方的に破棄し、「新しいタイプの大学づくり」を強行に進めようとしています。

私たちは、現在のような「大学改革」の進め方に、都民として強い憤りを感じています。このように強引で非民主的な「改革」の進め方に、私たちは反対します。

もちろん私たちは、都立の大学が、現状のままでよいと考えているわけではありません。改革のプロセスがもっと都民に開かれること、その中で都民の声に大学は誠実に耳を傾けて欲しいという思いを持っています。

しかし現在進められている「改革」は、「都民の声」を口実に進められながら、その実都民の声を全く無視して進められています。都立の大学に対する本当の「都民の声」はどのようなものなのか、そのことを私たちは、様々な立場の都民と共に丁寧に考えていきたいと思います。そのためにも、現在の東京都による一方的な「改革」を押しとどめる必要があります。

私たちは、都立の大学に、将来に対する様々な不安を抱えながらも、学問研究への取り組みを通じて社会に貢献しようとしている教員や院生、あるいは大学での学びを通じて自分自身の生き方を模索しようとしている学生、毎日の事務作業を通じて大学を支えている職員がいることも知っています。彼らはそれぞれの立場から、都立の大学を守るために様々な取り組みをしています。私たちはこのような取り組みを大学の外から応援していくとともに、都民として率直に現在の大学に対する意見・要望を伝え、都立の大学を真に「都民のための大学」とするための取り組みを進めていきたいと考えています。

みんなの思いがいきる

都立の大学づくりを

都立の大学を考える都民の会

e-mail: ganbare_toritudai@yahoo.co.jp
HP: http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/3113/index.html
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学障害児教育講座高橋智研究室気付
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学社会学部荒井容子研究室気付
賛同カンパ振込先：都立の大学を考える都民の会
郵便局口座番号　00190-5-481324